

<報道用資料>

平成23年1月11日
泰星コイン株式会社

鑄造/フランス国立造幣局(モネ・ド・パリ) 発行/フランス共和国

フランスが愛した永遠のヒロイン プレミアムコインコレクション

1月17日(月)より国内予約販売開始

泰星コイン株式会社(本社:東京 / 社長:岡 政博)は、フランス国立造幣局(モネ・ド・パリ)が鑄造しフランス共和国が発行する記念コイン「フランスが愛した永遠のヒロイン プレミアムコインコレクション」の日本国内での予約販売を、全国の主要金融機関などを通じて1月17日(月)より開始いたします。いずれも、時代を超えてフランスで愛され続けているヒロインをテーマにデザインされたコインコレクションで、内容は<コゼット><種を蒔く人><エウロパ>3種類のそれぞれ金貨と銀貨です。販売価格は<コゼット金貨><種を蒔く人金貨><エウロパ金貨>が各75,600円(限定各500枚)、金貨3種セットが226,800円(限定1,000セット)、銀貨3種セットが31,500円(限定2,000セット)(いずれも税込み価格)で、銀貨は3種セットでの販売のみとなっております。

■<コゼット> ユゴーの傑作『レ・ミゼラブル』のヒロイン

<コゼット>金貨・銀貨の表面には、ヴィクトル・ユゴーの小説『レ・ミゼラブル』のヒロイン・コゼットを描いています。

1862年に発表されたフランスロマン主義文学の最高傑作『レ・ミゼラブル』は、発売当日から列が出来る程の売れ行きで、その後ミュージカルとしても世界中に広がり、ヒロイン・コゼットの哀しくも優しくまっすぐな眼差しは、国や世代を超えて多くの人々の心を捉えました。その出版物や上演のメインビジュアルとしても大変有名になった<コゼット>の絵は、1879年から出版された“ユグ版『レ・ミゼラブル』”のために画家エミール・バヤールが描いた木版画が元で、このコインにも原画そのままのコゼットが、預けられ女中として働いていた宿屋を背景に描かれています。裏面にはユゴーの肖像とサイン、そして『レ・ミゼラブル』の中の一文が刻まれています。

■<種を蒔く人> 時代を超えて愛されているフランス通貨の象徴

<種を蒔く人>は、1世紀以上もフランス通貨の顔として親しまれているヒロインです。1897年発行の5、2、1フラン貨、さらにユーロ貨となってからの新しい10、20、50ユーロセント貨にも採用され、時代を超えてフランス国民に愛され続けています。

この<種を蒔く人>は、1896年にフランス政府からの依頼で彫刻家オスカー・ロティが作成したデザインですが、有名なミレー作の農民画“種まく人”や、1887年にロティが最初に作成したデザインに描かれたたくましい農夫を、フランスの象徴であるフリジア帽を被るマリアンヌに変えて発表し、フランスの伝統的なイメージを一新しました。

■<エウロパ> ヨーロッパの語源となった女神

ヨーロッパの語源といわれるギリシャ神話の女神<エウロパ>。白い牡牛になったゼウスにまたがり廻った地域が「ヨーロッパ」と呼ばれるようになりました。この<エウロパ>をデザインしたコインは大変人気があり、1999年より裏面を変えてシリーズとして発行を続けています。

■フランス国立造幣局が世界に誇る技術、洗練されたデザイン、そして限定発行

このコインコレクションはすべて限定発行で、金貨は各3,000枚(対日割当1,500枚)、銀貨は各10,000枚(対日割当2,000枚)と大変希少性が高くなっております。また、世界最高レベルの技術と丁寧かつ緻密な工程に裏打ちされ洗練されたデザインが、プルーフ加工により一層格調高く美しい仕上がりとなっております。

フランスが愛した永遠のヒロイン プレミアムコインコレクション 発売概要

価 格	■ A. コゼット金貨	75,600円 (限定 500枚)
	B. 種を蒔く人金貨	75,600円 (限定 500枚)
	C. エウロパ金貨	75,600円 (限定 500枚)
	D. 金貨3種セット (A B C)	226,800円 (限定1,000セット)
	E. 銀貨3種セット (① ② ③)	31,500円 (限定2,000セット)

※いずれも税込み価格です。

※銀貨①②③は金貨と同様のデザインで、セット販売のみとなります。

※すべての商品に特製ケースと発行証明書をお付けします。

規格及び発行限度数

	50ユーロ 金貨	10ユーロ 銀貨
品 位	92.0%	90.0%
重 量	8.45g	22.20g
直 径	22.0mm	37.0mm
状 態	プルーフ	プルーフ
発行限度数	各3,000枚	各10,000枚
対日割当数	各1,500枚	各2,000枚
デ ザ イ ン	A コゼット B 種を蒔く人 C エウロパ	① コゼット ② 種を蒔く人 ③ エウロパ

*プルーフとは表面を鏡のように美しく磨いた特別仕上げです。

発売開始日 ■ 平成23年1月17日(月) 全国一斉予約受付開始

発売窓口 ■ 別紙(8ページ)参照

鑄 造 ■ フランス国立造幣局(モネ・ド・パリ)

発 行 ■ フランス共和国

総輸入元 ■ 泰星コイン株式会社

本件に関するお問合せ先



フランス記念コイン事務局(泰星コイン内)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋2-23-2 UBG東池袋ビル1階

TEL. 03-3590-8276 担当/本田、馬場、小野、庄司

FAX. 03-3590-8305 E-mail: secretariat@taiseicoins.com

URL: <http://www.taiseicoins.com/bank.html>

1月11日(火) はこちらへお問い合わせをお願いします。

▶090-3139-7658 (本田携帯)

▶050-3772-7834 (馬場携帯)

デザインと解説-1

A コゼット金貨



① コゼット銀貨

1862年にヴィクトル・ユゴーが発表したロマン主義文学の最高傑作『レ・ミゼラブル』* のヒロイン《コゼット》です。これは、1879年から出版された“ユグ版『レ・ミゼラブル』”のために画家エミール・バヤールが描いた木版画を元に、背景にはコゼットが預けられ女中として働いていた宿屋を描き、RF（フランス共和国の頭文字）とレ・ミゼラブル、コゼットの名が刻まれています。

ミュージカルでも大変有名になったこのコゼットの絵。哀しくも優しくまっすぐな眼差しは世界中の人々の心を捉えました。悲惨な運命に巻き込まれながらも絶対的な愛を貰ったコゼットは、国や世代を超えたヒロイン、普遍的な存在として受け継がれています。



画家エミール・バヤールが描いた木版画

1879年～1882年出版のユグ版『レ・ミゼラブル』の為に製作されました。その後も多くの出版物の表紙やミュージカルのメインビジュアルのモチーフに採用されるなど世界的に有名。

裏面

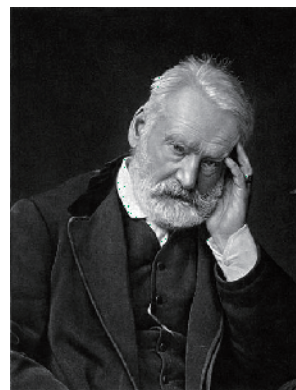


『レ・ミゼラブル』の作者であるヴィクトル・ユゴーの肖像を描いています。その左側には『レ・ミゼラブル』からの一文「コゼットは、人形を持って近づいてくる男性を太陽のように見上げました」とヴィクトル・ユゴーのサインならびに額面、発行年銘が刻まれています。

* 『レ・ミゼラブル』について

1862年にヴィクトル・ユゴーが発表したフランスロマン主義文学の最高傑作です。1本のパンを盗んだために19年もの間投獄されたジャン・バルジャンが、ヒロイン・コゼットに永遠に変わらない真実の愛を注ぎ、人として善良と真心を貫く生涯を、ナポレオン一世没落以後の動乱の19世紀フランスを舞台に描いています。

コゼットは、物心もつかない3才でテナルディエ夫妻に預けられ、母親の名前も知らないまま夫妻が営む宿屋で女中として働かされ虐待を受けていました。8才でジャン・バルジャンに引き取られ、彼を心から慕い親愛の情に包まれたコゼットには笑顔が戻りました。純真無垢で心優しい少女だったコゼットは、成長して美しい女性となりマリウスと結婚します。変転する政治体制に揺さぶられる激動と混沌の中で、互いに絶対的な愛を貫きつつも大きな運命の渦に翻弄されるコゼットとジャン・バルジャン、そしてマリウス。懸命に生きる彼らの根底に流れる真実の愛は、出版、ミュージカル、ドラマと様々な形で、国や世代を超えて普遍的なテーマを私たちに問いかけ続けています。



ヴィクトル・ユゴー

<1802-1885>

詩人、小説家、エッセイスト、劇作家そしてジャーナリストでもあり、1855年にはヨーロッパ共通通貨の必要性について書き記したことで知られています。

デザインと解説-2

B 種を蒔く人金貨



② 種を蒔く人銀貨

〈種を蒔く人〉は、1世紀以上もの間、フランス通貨として愛され、フランスを象徴するヒロインです。1897年発行の5、2、1フラン貨、さらにユーロ貨となつてからの新しい10、20、50ユーロセントのデザインにも採用されています。

その周囲には欧州連合を表す12の星とRF（フランス共和国の頭文字）、発行年銘を刻印しています。

この〈種を蒔く人〉の起源は、1887年にフランス政府からの依頼で彫刻家オスカー・ロティがメダルのデザインとして作成したものです。しかしこれは実現せず、1896年、今度は新しいコイン製作の際にフランス政府がデザイナーの1人にロティを指名しました。『種まく人』といえばミレー作の有名な農民画で、1887年のロティ作〈種を蒔く人〉でもたくましい体つきの農夫が描かれていましたが、彼はそれを、フランスの象徴でフリジア帽を被るマリアンヌ**に変えて発表し、フランス共和国の伝統的なイメージを覆しました。この新しいデザインはフランス国内で激しい論議を巻き起こしましたが、モダンで写実的なスタイルで、時代を超えて愛され続けています。



『種まく人』1850年
ジャン=フランソワ・ミレー
(1814-1875)



5フラン



50ユーロセント

裏面



スターターキット販売10周年を記念したデザインです。スターターキットとは全種類のユーロ硬貨が収められていた塩化ビニール製の袋で、2002年に導入されるユーロ硬貨に人々を慣れさせることを目的に2001年に販売されました。

「100 FRANCS soit 15.24 EUROS」（100フランは、15.24ユーロ）と刻印されており、様々なユーロ硬貨のデザインと色が「点」や「垂線」で表現されています。上部には額面が刻まれています。



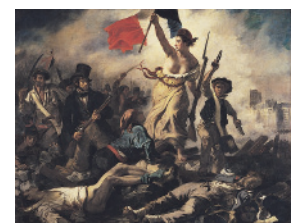
スターターキット

**マリアンヌとフリジア帽について

マリアンヌはフランス共和国を象徴する自由の女神。フランス革命の際、労働者階級の象徴とされたフリジア帽を被っています。切手や硬貨、公的施設に設置される彫像など、国章に準ずるものとしてあらゆる形で国民に親しまれています。フランス共和国政府は1999年からロゴマークにも採用しています。



共和国広場の像



ドラクロワ
「民衆を導く自由の女神」

デザインと解説-3

C エウロパ金貨



③ エウロパ銀貨

ヨーロッパの語源といわれるギリシャ神話に登場する女神<エウロパ>。その美貌に恋したゼウスが白い牡牛となって近づきます。エウロパが白牛にまたがるとその途端にクレタ島へと連れ去り、そこでゼウスは本来の姿を現し、エウロパはクレタ島で最初の妃になりました。ゼウスの白い牡牛に連れ去られた際に廻った地域が「ヨーロッパ」と呼ばれるようになりました。

<エウロパ>コインは、フランスの人気シリーズとして裏面デザインを変えて1999年以来継続発行しており、まさに永遠のヒロインといえる人気の女神像です。肖像の周囲をユーロのロゴが、参加国数の12個囲み、発行年が刻印されています。

裏面



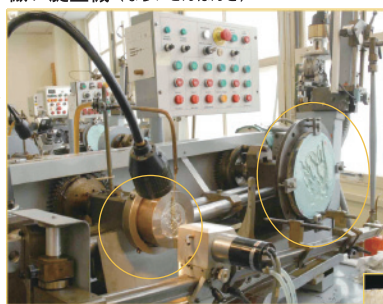
フランスで生まれた「音楽の祭典」の30周年を記念したデザインです。「音楽は全ての人のもの」という基本精神の下、毎年6月21日に行われています。1982年にフランスで始まった「音楽の祭典」は、これまでにフランスや世界の100以上の国々と300以上の都市で開催されて来ました。プロ、アマやジャンルは問わず、世界中の全てのミュージシャンが参加出来る無料ライブコンサートです。

【参考】コインの鑄造工程



①裏と表のデザイン画から固い合成樹脂の鑄型（マスター）を手作業で作ります。

做い旋盤機（ならいせんばんき）



右の緑の円盤がマスター
左が複製された打ち型

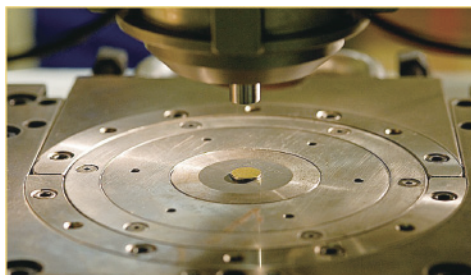


②做い旋盤機によってマスターの形状を機械的に打ち型に複製します。

打ち型の原盤



③複製された打ち型から更に小さな打ち型の原盤が作られます。



④半加工の貴金属（ブランク）を原盤の打ち型が固定されたプレス機に固定し、両面の形状をブランクに刻印します。



出来あがった打ち型が右
マスターが左



コインが完成

商品の外観

A コゼット金貨

75,600円 (税込み)
限定500枚



B 種を蒔く人金貨

75,600円 (税込み)
限定500枚



C エウロパ金貨

75,600円 (税込み)
限定500枚



D 金貨3種セット (A B C)

226,800円 (税込み)
限定1,000セット

E 銀貨3種セット (①②③)

31,500円 (税込み)
限定2,000セット



【参考資料】

帝劇開場100周年記念公演『レ・ミゼラブル』について



『レ・ミゼラブル』の感動がよみがえる!



2011年、開場100周年を迎える帝国劇場で『レ・ミゼラブル』がロングラン上演されます。名もなき人々が懸命に生き抜く姿を描いた感動のストーリー、美しい楽曲、豪華な舞台装置などの華やかな演出でミュージカルの歴史を変えたと言われる奇跡の名作。1987年の日本初演はイギリス（ロンドン）、アメリカ（ニューヨーク）に次いで世界で3番目で、以来、通算上演回数2,481回を数えています。そして記念すべき帝国劇場100周年の年、ついに2,500回を突破します。厳しいオーディションを勝ち抜いた実力派の新キャストに加え帝劇100周年スペシャル・キャストも決定。いよいよ4月12日に初日を迎えます。コゼット、ジャン・バルジャンがまた新たな感動を与えてくれるでしょう。



2009年帝劇公演より 写真提供：東宝演劇部

【ミュージカル『レ・ミゼラブル』公演概要】

◇会場：帝国劇場

◇スケジュール：2011年4月12日(火) 初日～6月12日(日) 千穂楽 (※プレビュー公演：4月8日(金)～4月10日(日))

◇チケット発売：2011年1月29日(土)～前売り開始

◇主なキャスト：

- <ジャン・バルジャン> 山口祐一郎、別所哲也、吉原光夫、今井清隆
- <フォンテーヌ> 知念里奈、新妻聖子、和音美桜、岩崎宏美
- <エポニーヌ> 笹本玲奈、ジェニファー・ペリ、平田愛咲、島田歌穂
- <ジャベール> 石川禪、岡幸二郎、今拓哉、KENTARO、鹿賀丈史
- <コゼット> 神田沙也加、中山エミリ、稲田みづ紀、折井理子
- <マリウス> 山崎育三郎、原田優一、野島直人、石川禪

作◆アラン・ブープリル & クロード=ミッシェル・シェンベルグ
原作◆ヴィクトル・ユゴー 翻訳◆酒井洋子 訳詞◆岩谷時子
プロデューサー◆田口豪孝/坂本義和 製作=東宝

フランス国立造幣局（モネ・ド・パリ）について



フランスの貨幣鑄造の歴史は、貨幣関係事業を統合したシャルルマーニュ大帝の時代、9世紀にさかのぼります。その後ルイ15世の提唱により、約6年の歳月をかけてパリ中心部、セーヌ河畔にあるコンティ館に建設された造幣局が1775年に完成、1879年には現在のコイン・メダル庁が発足しました。これにより、貨幣製造権は最終的に国家によって独占されることになりました。

1973年フランス政府はジロンド県ペサックに最新鋭の工場を建設し、金属鑄造から最終パッケージの製造に至るまで、貨幣の全工程を集約すると決定しました。以後、25年以上にわたり、フランスの貨幣はこの工場で鑄造されています。1998年春にはこの工場に大規模な資金が投入され、2002年までの間に8種類90億枚のユーロコインの鑄造を行いました。

2007年1月1日、モネ・ド・パリは、E P I C（国営通商産業公社）となり、フランスの全流通貨幣の製造、ユーロ偽造コインの撲滅を目指して国家のために保証マークを制作するとともに、貨幣博物館の管理を行い、コレクションを一般社会に紹介することが任務の一部となっています。



発売窓口一覧

都市銀行	三井住友銀行、埼玉りそな銀行	(2)
地方銀行	足利銀行、阿波銀行、伊予銀行、岩手銀行、群馬銀行、清水銀行、 十八銀行、親和銀行、スルガ銀行、千葉興業銀行、中国銀行、筑波銀行、 東北銀行、富山銀行、八十二銀行、百五銀行、百十四銀行、広島銀行、 福井銀行、北越銀行、北陸銀行、北海道銀行、北國銀行、三重銀行、 武蔵野銀行、山口銀行、山梨中央銀行	(27)
第二地方銀行	愛知銀行、香川銀行、きらやか銀行、京葉銀行、高知銀行、島根銀行、 第三銀行、東和銀行、徳島銀行、栃木銀行、富山第一銀行、東日本銀行、 福邦銀行、北洋銀行、もみじ銀行	(15)
労働金庫	全国の労働金庫各支店	